

歌碑 円珠 -利根町追貝、下川田町-

地域で守る薬師堂



深津太一さん
下川田町

円珠が尼となって入ったといわれる「宮塚の薬師堂」(右下写真)。地域の人たちで境内の草刈りを行うなど、皆で薬師堂を守り続けています。今も継続して毎年4月8日に祭典を行っていて、祭典当番が清掃や飾り付けなどの準備をします。祭典当日は、遷流寺住職によるご祈祷も行われ、1年で唯一、薬師堂のご神体を持つことができるので、参拝にお越しください。

円珠は戦国時代、川田四郎光清の息女として川田城内に生まれ、数々の名歌を残しました。下川田町の碑に刻まれた子持山を詠んだ歌(表紙)は、へ上つきの沼田の里に円かなる珠のありとは誰か知らまし」と正親町天皇の御製を受け、名を「円珠」と改めたといわれています。

諸説ありますが、この歌は円珠が吹割溪谷を詠ったといわれ、ここにあった追貝(追貝橋)は、会津方面から攻められたときに重要な役割を果たしました。

荒磯の岩に
くたけて散る月を
ひとつに成て帰る波かな



上) 利根支所前の円珠碑。周辺に芭蕉句碑もある 下) 紅葉が美しい宮塚の薬師堂

競い楽しむ俳友の輪

句碑 小野蓮那・逸堂 -平出公民館- (白沢町平出)

平出に生まれた小野蓮那は、初め船遊と号し、後に天命庵蓮那と改めます。俳句に親しむ仲間が多く、よく俳句会を開いていました。長男の逸堂は行政事務の役人などで活躍。父の血を受け、芭蕉俳諧を好みました。

白雲の上につもるや
富士の雪 蓮那
人の為 世のためにとて
くすり塚 逸堂



養蚕技術で地域潤う

句碑 蚕養庵宝玉 -蚕養神社(奈良町)-

養蚕業の振興に生涯を捧げた養蚕教師の今村満次郎は、24歳で養蚕伝習所に入所。その後、独自の「今村式飼育法」を開発し、「中途半端の者には教えない。3年間9回の飼育に責任を持つ」と、絶対の指導法を物語る逸話が残っています。こうした指導が地域に感謝され、1940(昭和15)年に蚕養神社(奈良町)が建てられました。句碑は参道石段を登りすぐ右手にあり、左側に師匠の「南丘圃静宇」の句碑が建ちます。

つつがなく
四度も休みて繭の中



現在も池田地域に残る桑畑を眺めながら、養蚕の思い出を語り合う皆さん

